

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21310156

研究課題名（和文） IT時代における現代アラビア語の言語社会学的研究

研究課題名（英文） Sociolinguistics Study of Contemporary Arabic in the Age of Innovation of Information Technology

研究代表者

長澤 榮治（NAGASAWA EIJI）

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00272493

研究成果の概要（和文）：

本研究は、アラブ世界の国民国家形成と近代化過程の中で成立した「現代アラビア語」が、今日の情報革命とマスメディアの展開による言語環境の変化の中で、新たに果たしつつある政治社会的な役割について、とくに言語環境と社会・政治変容との関係に注目しながら、地域研究的な共同研究を行った。とくに正則アラビア語（フスハー）と方言アラビア語（アーンミーヤ）と言う二種類の言語が社会各層のアイデンティティやイスラーム運動などの社会運動とどのような関係にあるかについて考察した。2011年に始まるアラブ革命におけるアラビア語の役割についても機動的に分析を行った。以上の研究を踏まえ「現代アラビア語」のプロジェクト全体の研究ツールとしてアラビア語辞書データベースの改良も行った。

研究成果の概要（英文）：

This study was coordinated among five scholars and explored area-study oriented research subjects with focus on the politico-social role now being played by 'Contemporary Arabic' in the midst of today's information revolution and mass-communication development. Formed in the process of nation-state building and modernization in the Arab world, Contemporary Arabic has reflected tenuous links between linguistic environments and socio-political transformation. Then this study firstly dealt with relations of the two types of languages, Standard Arabic (Fuṣḥā) and Colloquial/Dialect Arabic (ʿĀmmiyya), with social identity and social movements such as Islamic ones. The role of Arabic in the Arab revolution since 2011 was also examined according to situations. After these researches, the data base for Arabic dictionary as a tool for our 'Contemporary Arabic' project has been improved in addition.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2010年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2011年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	9,900,000	2,970,000	12,870,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：アラビア語、IT 技術、文語、口語、イスラーム、アイデンティティ、メディア、言語学

1. 研究開始当初の背景

(1) 多様な価値観をもつ人々が共存している現代アラブ世界において、アラビア語は深く人々のアイデンティティと関わりをもっている。とくに近代以降は、国民国家建設の過程と結びついて「現代アラビア語」というべき新しい形態の言語が生成・発展して、政治社会変動に大きな影響を与えてきた。こうした現代アラビア語の発展は、これまでの正則アラビア語（フスハー）と方言アラビア語（アーンミーヤ）という二項対立的な構造（それは知識層・非知識層などという社会階層構成とも結びついていた）に大きな変化を及ぼしつつある。

(2) とくに現代のアラブ世界では、衛星放送アル・ジャジーラを先駆とするアラビア語によるマスメディアの展開と、パソコンの普及による情報革命によって言語環境の大きな地殻変動が起きている。このような情報革命は、「現代アラビア語」そのものの内容、すなわち語彙や用法、あるいは文法などの諸側面に大きな影響を及ぼしつつある。また、こうした言語環境における地殻変動は、新しい情報メディアを通じたイスラーム的政治言説の伝播によって、急進的な政治運動の地域横断的で同時発生的な拡大をももたらしめている。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、これまでの中東研究では十分な研究関心が払われて来なかった言語環境における地殻変動と政治・社会体制の変革との関係について、現代アラビア語に関する言語社会学的な研究を中心にして明らかにすることを目的とした。

(2) 情報革命の影響を受けながら現在、アラブ世界は政治的、社会的に見て、大きな岐路に立っている。1960、70年代以降の独裁的な政治体制が、一方では国際政治の次元からの、他方では草の根社会の次元からの「民主化」運動にさらされ、根本的な改革を迫られているからである。この政治・社会変革の原因ともなり、結果ともなっている現代アラビア語の実態を地域研究的な共同研究の体制で分析した。

3. 研究の方法

(1) 上記のような問題関心に対応した研究を進めるために、言語社会学的な研究を中心に据えながら、同時にイスラーム学や政治学、歴史学、そして言語学やアラブ文学など複数の専門領域の枠組みと手法を動員した共同研究の体制をとった。また、こうした地域研究的な共同研究と並行して、変化の著しい「現代アラビア語」の実態分析のための研究ツールの開発も重要であった。

(2) 地域研究による「現代アラビア語」の言語社会学的研究のために、以下の諸課題についてそれぞれに対応した研究手法にもとづいた調査・分析を行った。そのために必要な資料収集・現地調査を行った。i. 「現代アラビア語」の歴史的形成と国家の言語政策に関する歴史学的研究。ii. 「現代アラビア語」の言語学的特徴に関する文献学的・資料解析的研究。iii. 「現代アラビア語」と情報環境に関する文学的メディア学的研究。iv. 正則アラビア語とイスラーム政治運動との関係に関する政治学的イスラーム学的研究。v. 方言アラビア語と社会各層のアイデンティティに関する言語学的歴史社会学的研究。

vi. 「現代アラビア語」基礎研究データベースの構築と改良。

4. 研究成果

(1) 「現代アラビア語」の歴史的形成と国家の言語政策：アラブ主要国に設置されたアラビア語アカデミーは、近代の公的なアラビア語の標準化に多大な貢献をなしてきた。本プロジェクトではその活動に焦点を当て、エジプトとシリアのアラビア語アカデミーを訪問調査し、関係者から聞き取りを行うと共に基本資料各種の収集を行った。アラブ諸国の各アカデミーの関係を調査するとともに、非アラブ圏におけるイスラーム教育と結びついた現代アラビア語の果たす役割についても補足的に研究を行った。その結果、各国のアカデミーによるアラビア語標準化の協調的努力がある一方、それ以外の公的・半公的機関・団体による活動が並行的になされていること、エジプトのアカデミーが編纂する『大辞典』（未完）、『中辞典』（現在第5版）の影響力も地域的な偏差があることなどが分かった。

(2) 「現代アラビア語」の言語学的特徴：コーラン（クルアーン）の伝承とメディア表現、現代小説とアラビアンナイトなど古典文学との比較、文法的特徴の比較研究などの具体的な諸課題に関する考察と言語情報の収集を行った。その結果、(4)の課題とも関連するが、イスラーム関係用語が政治状況や使用者によって変容しつつあること、小説などの実験的な技法が古典文学の解釈においても用いられている点などが明らかになった。

(3) 「現代アラビア語」と情報環境：衛星放送などを通じて汎アラブ世界的に流通する言語的特徴の変化（エジプト・東アラブ・湾岸の地域偏差）、インターネットや携帯電話メッセージで略語化される言語表現や、音韻変化、文法上の変更、それらの活字メディア

への影響に関する多面的な考察を行った。その結果、とくに正則アラビア語の語法が新しいメディアによってより標準化されている傾向が見られる一方、従来は文字化されない各国方言の口語体の使用が頻繁に見られるようになっている点も明らかになった。

(4) 正則アラビア語とイスラーム政治運動との関係：コーラン（クルアーン）の言語である古典アラビア語の現代アラブ政治における役割について、主要な思想家・運動指導者の言説分析を行った。その結果、クルアーンやハディース（預言者ムハンマド言行録）のデジタル化と検索機能付きのデータベースの利用がインターネット上で簡便にできるようになったことで、特定の思想家や指導者たちによる言説の流通の加速化と並行して、大衆的なイスラーム言説利用の形態が出現していること、それが各地域の政治社会運動に大きな影響を与える可能性があることなどが検討された。

(5) 方言アラビア語と社会各層のアイデンティティ：アラブ世界は、西側からマグレブ、エジプト、マシュレク、アラビア半島などの各方言域に区分されるが、1980年代以降のアラビア半島産油国の経済的地位の向上とともに、各地の方言の勢力関係にも大きな変化が起きつつあること、また都市化や人口移動の加速化に伴い、各国内における方言差についても、社会意識が変化し、階層的なアイデンティティ構造にも影響を与えていることが分かった。

(6) 「現代アラビア語」基礎研究データベースの構築と改良：本プロジェクトに先行する科研費プロジェクト「アラブ世界の活字文化とメディア革命」において実験的に構築した「現代アラビア語基礎研究データベース」に追加語彙入力とデータ加工を行い、改良を行った。

(7) アラブ革命と現代アラビア語：2011年1月のチュニジアとエジプトで始まったアラブ革命がどのような新しいアラビア言語環境の中で行われたかについて、現地調査を行うとともに、関係資料の収集に努め、専門家を招聘して現代アラビア語とエジプト革命に関する国際ワークショップを開催した。その結果、スローガンや革命歌、ポスターやビラ、革命詩などの分析を通じて、上記の新メディアの発展を通じた正則語・口語方言の関係変化が顕著に見られ、大きな政治社会変動の背景になっていることが検討された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計18件)

- ① 西尾哲夫、A Bibliography of the *Arabian Nights* in the 18th Century、国立民族学博物館研究報告、査読有、36巻4号、2012、561-570、
- ② 長澤榮治、エジプト第二共和制の道は敷かれたか、現代思想、査読無、39巻4号、2011、94-99、
- ③ 長澤榮治、エジプト1月25日革命を考える－「腐敗」をキーワードにして－、中東研究、査読無、511号、2011、39-47、
- ④ 長澤榮治、二つのエジプト革命、国際問題、査読無、605号、2011、19-28、
- ⑤ 長澤榮治、エジプト1月25日革命は何を目指すのか、水谷周編アラブ民衆革命を考える、国書刊行会、査読無、2011、98-135、
- ⑥ 杉田英明、知識の泉としての「アラビアン・ナイト」：バートン版と南方熊楠、アジア遊学、査読無、144号、2011、154-163、
- ⑦ 加藤博・岩崎えり奈、エジプト農村の世帯・家族構造、東洋文化研究所紀要、査読有、159冊、2011、171-210、
- ⑧ 加藤博、「革命」の前後でエジプト国民の政治意識はどう変化したか、東洋文化研究所紀要、査読有、160冊、2011、259-322、
- ⑨ 小杉泰、ポスト九・一一のイスラーム復興－中道派と草の根の運動、現代思想、査読無、39巻13号、2011、120-135、
- ⑩ 小杉泰、アラブ革命の連鎖と21世紀の中東、中東研究、査読無、512号、2011、10-18、
- ⑪ 小杉泰、現代宗教としてのイスラーム：世界的なウンマとモスクを中心とする地域コミュニティ、宗教研究、査読無、371巻、2011、71-96、
- ⑫ 西尾哲夫、コーランの伝承とメディアの変化、月刊みんぱく、査読無、4月号、2011、9、
- ⑬ 西尾哲夫、新生アラビア語が生んだ“フェイスブック”革命、週刊エコノミスト、査読無、3月22日号、2011、38-39、
- ⑭ 加藤博、エジプト農村における「家族」(アーイラ)－19世紀中葉オアシス村落に関する住民登録文書に基づいて－、東洋文化研究所紀要、査読有、157冊、2010、83-120、
- ⑮ 小杉泰、イスラーム世界の眺望、田中浩編ナショナリズムとデモクラシー(現代世界－その思想と歴史②)、未來社、査読無、2010、203-221、
- ⑯ 杉田英明、ハーンのイスラーム諸国物語－主要三作品の典拠と注解、平川祐弘・牧野陽子編ハーンの文学世界講座小泉八雲II、査読無、2009、233-252、
- ⑰ 西尾哲夫、エジプト・アラビア語のWh疑問文の語順と語順変化－コプト語影響説の再検討、国立民族学博物館研究報告、査読有、34巻1号、2009、1-39、
- ⑱ 西尾哲夫、アラビア文字・アラビア語、町田和彦編図説世界の文字とことば、河出書房新社、査読無、2009、68-69

〔学会発表〕(計5件)

- ① 岡本尚子・小田淳一・西尾哲夫、アラビアンナイト写本伝承とオリエンタリズム－ワートリー・モンタギュー写本の歴史的再構成の試み(De-Orientalizing the Arabian Nights: Towards historical reconstruction of the Wortley-Montague manuscript)、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承(The Arabian Nights and its textual tradition)」、2010年12月18日、国立民族学博物館(大阪)、
- ② Hiroshi Kato、Multiple Identity of the Arab People Based on the Results of Recent Poll Survey, Second World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES)、2010年7月20日、バルセロナ大学(スペイン)、
- ③ 杉田英明、ヨーロッパ人が聴いた礼拝の呼びかけ：ヴィロトー・レイン・ハーン、日本中東学会第26回年次大会(招待講演)、2010年5月8日、中央大学(東京)、
- ④ 杉田英明、前嶋信次「アラビアン・ナイト」原典訳への道、シンポジウム「井筒俊彦と前嶋信次－日本におけるイスラーム研究の源流を探る」招待講演、2009年度三田史学会大会、2009年6月27日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京)、

- ⑤ 小杉泰、イスラーム地域研究とグローバル・イスラーム：国際組織の研究から、NIHUイスラーム地域研究2009年度第1回合同集会、2009年7月11日、京都大学百周年記念ホール(京都)

[図書] (計11件)

- ① 長澤榮治、平凡社、エジプト革命：アラブ世界変動の行方、2012、262、
- ② 小杉泰、京都大学学術出版会、イスラーム：文明と国家の形成、2011、531、
- ③ 西尾哲夫、NHK出版、世界史の中のアラビアンナイト、2011、276、
- ④ 小杉泰、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科付属イスラーム地域研究センター (KIAS)、イスラーム世界研究のための現代アラビア語マニュアル2009、2010、259、
- ⑤ 小杉泰、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科付属イスラーム地域研究センター (KIAS)、イスラーム地域研究のためのアラビア語基礎語彙集 3000語、2010、90、
- ⑥ 西尾哲夫・堀内正樹・水野信夫、スタイルノート、アラブの音文化ーグローバル・コミュニケーションへのいざない、2010、304、
- ⑦ 加藤博、書籍工房早山、イスラム経済論イスラム経済倫理、2010、238、
- ⑧ 小杉泰編、山川出版社、イスラームの歴史 2ーイスラームの拡大と変容、2010、279+70、
- ⑨ 西尾哲夫、日本放送出版会、アラビアンナイトーファンタジーの源流を探る、2010、175、
- ⑩ Eiji Nagasawa, Merit Publishing House(Cairo), Modern Egypt through Japanese Eyes: A Study on Intellectual and Socio-economic Aspects of Egyptian Nationalism, 2009、410、
- ⑪ 小杉泰、岩波書店、「クルアーン」語りかけるイスラーム、2009、261、

[その他]

ホームページ等

「現代アラビア語基礎研究データベース」

http://ricasdb2.ioc.u-tokyo.ac.jp/test/arabic_key.php

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長澤 榮治 (NAGASAWA EIJI)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00272493

(2) 研究分担者

杉田 英明 (SUGITA HIDEAKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：90179143

加藤 博 (KATO HIROSHI)

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：10134636

小杉 泰 (KOSUGI YASUSHI)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：50170254

西尾 哲夫 (NISHIO TETSUO)

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授

研究者番号：90221473

(3) 連携研究者

保坂 修司 (HOSAKA SHUJI)

日本エネルギー経済研究所・中東研究センター・副センター長

研究者番号：80421220

中江 加津彦 (NAKAE KATSUHIKO)

関西外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：00330217